



創立50周年 記念誌



創立 50 周年記念誌

編 集 50 周年記念誌編集委員会
発 行 シーエスジャパン株式会社
発行日 2022 年 5 月

 シーエスジャパン株式会社

物流機器・システムで世界をつなぐ

シーエスジャパン株式会社

創業の精神 50周年5つの誓い

ケチケチ精神で

ローコスト＆
高付加価値

発生主義・
現場主義で

仕分して
スピード展開

重点志向で

目標実現

ぎりぎりの
目標設定で

チャンスに
チャレンジ

理にかなった
行動で

黒字経営

行動規範

- ◎社会の変化に果敢にチャレンジしよう
- ◎公正・公平を重んじ信用と信頼を得よう
- ◎利益を創造し、社会に貢献しよう

考えよう
(創意工夫)

社会
貢
献



当社 50 周年を迎えて 『皆様への感謝と未来へ向けて』

当社シーエスジャパンはお蔭様で 2022 年 2 月 1 日をもって創業 50 周年を迎えました。

紆余曲折ありながらこうして 50 周年を迎えられましたのも、お客様、国内外協力先、地域の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

そして、創業以来共に汗を流し、当社を支えていただいた従業員の皆様にも深く感謝致します。

当社は 1972 年 株式会社千葉総業として千葉県市原市で事業を開始し、構内作業・梱包作業から仕事を始めました。その後京葉工場地域の発展とともにパレット製造、ボックス等の各種物流機器製造、梱包、倉庫業と事業展開してまいりました。

お客様の要望にお応えするため、木製から鉄製へと製品も広げ、且つ生産拠点も関連会社含めまして国内 3 拠点 中国 3 工場 ベトナム 2 工場 インドネシア 1 工場と海外拠点も含め拡大してまいりました。特別力のない当社が海外進出するにあたっては、海外パートナー会社の皆様、立上げに尽力いただきました諸先輩方、支えていただいたお客様等 皆様の協力と努力の結晶と考えております。

2019 年には分社化していた海外製造会社を吸収合併し、社名も新たにシーエスジャパン(株)として歩み始めております。また今年 1 月には、茨城県古河市に新工場（古河事業所）を竣工致しました。

今後も当社の強みである国内、海外工場の生産性向上と相互の連携協力体制を強化してまいります。

現在求められている物流の多様化や社会課題である環境負荷への対応や人手不足問題等により、物流効率化は必要不可欠であり、利用される物流機器に求められる要求も大きく変化しております。

当社は製造力を生かしながら、こうした需要や市場変化に対応するために、お客様のニーズに正面から向き合い、開発提案力を強化し、これらの課題に対応する製品、サービスを提供していかねばなりません。そのために社内体制や仕組みの再構築、社員教育等を進めてまいります。

今回 50 周年を節目として、会社の歴史と歩みを皆様と製作していく中で強く感じたことは、会社を支えてきた会長、諸先輩方の努力と実行力、そしてやり遂げることへの強い『思い』です。

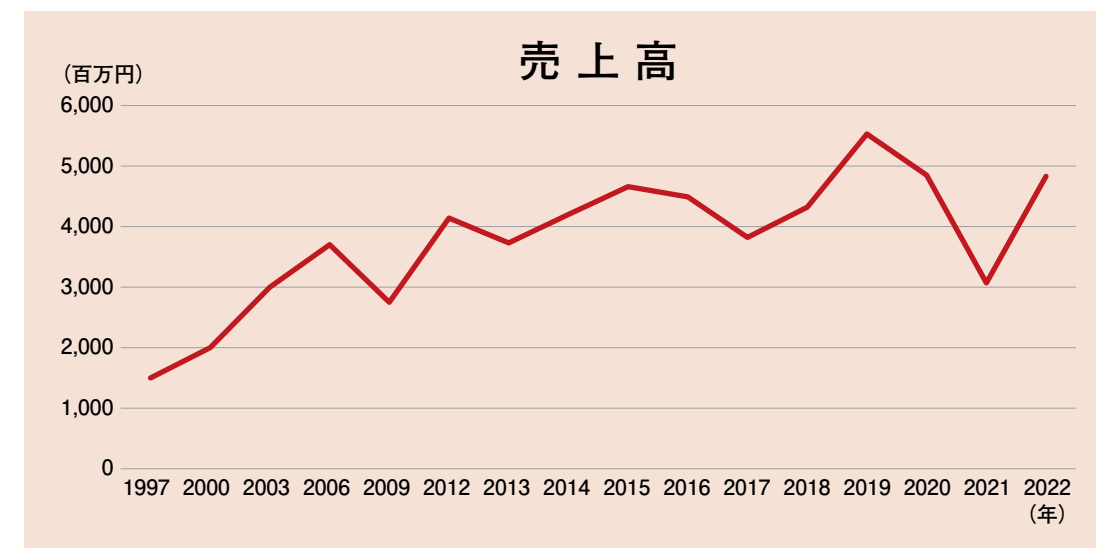
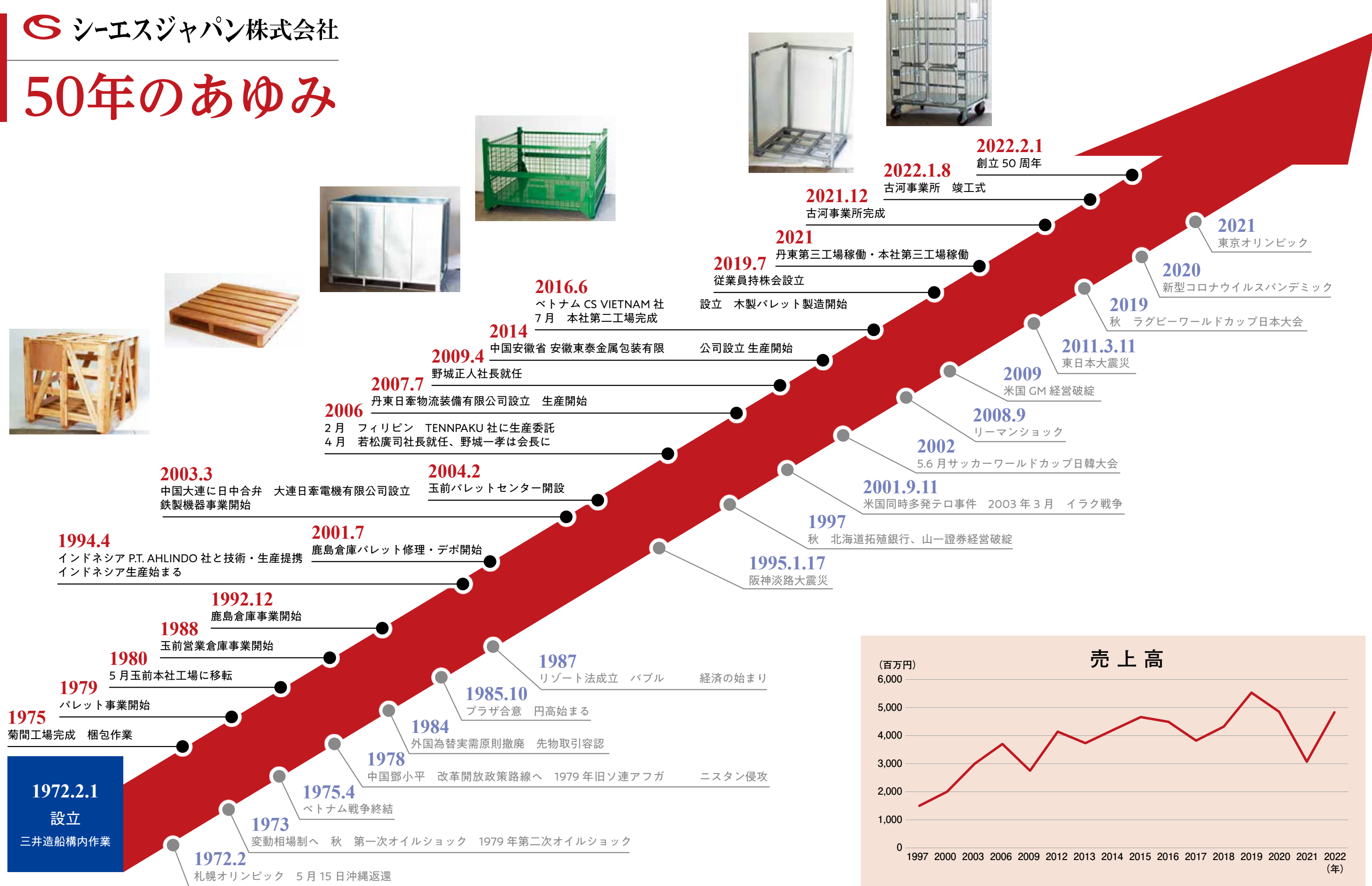
また、創業の基本である『人、時、物』、50 周年の誓いで掲げている経営の原理原則の大切さを改めて強く認識しました。

私自身、こうした歴史や思い、経営の基本をしっかりと受け止め、私の使命でもある、当社の『継続と発展』のため、これまで以上に努力してまいります。

シーエスグループ、海外関連会社の従業員皆様と共に、成功や失敗、時には喜びや苦勞も分かち合い、新たな 50 年へ向け、会社の未来と一緒に創っていきましょう。

代表取締役社長 野城 正人
Yashiro Masahito

50年のあゆみ





やしろ かずたか
野城 一孝会長に聞く

シーエスジャパンの歴史

聞き手：野村 智夫

野城一孝会長は1937年(昭和12年)7月7日千葉県市原郡八幡町(現市原市八幡)山木に、父 野城竹司、母 たけの次男として生まれた。野城家は農家であった。お百姓仕事を父親から一通り鍛えられたと聞くが、どのようにしてシーエスジャパン(旧千葉総業)の創業に至るのか、まずは創業までの話を聞いていく。

1. 創業以前

◆ 高校卒業後はまずどうされたのですか。

野城 そもそも親父は農家の次男が高校なぞ行く必要ねえ、と言っていたし、私も勉強は嫌いでしたから農家の仕事をやるつもりでしたが、長女の姉が「これからは高校ぐらい出てなければ」と説得してくれました。高校を出てからは、まず叔父が葛飾区立石で経営する染物業に見習いとして入社しました。当時の思い出として一番印象に残っているのは、初めて三越からの注文で明治大学の校旗を任されたのですが、たった一つ点が残ってしまい色抜きして納めたところ、クレームとなり作り直しとなったことですね。

◆ 要求どおり納めるのが当然という品質管理の厳しさを経験されたのですね。

野城 姉の嫁ぎ先の計量器製造卸業で働きたいと思っていたので、計量器の勉強として、墨田区立川の飯島

衡器製作所に入社して、営業、購買、生産すべて経験しました。この時の経験は創業後、役に立っていると思います。

◆ その後いろいろあり独立されたのですね。美容院関係の仕事をされていたのを私も覚えています。

野城 新聞でみつけた和菓子材料問屋に3年ほど勤めました。若かったので他の社員を誘ってよく飲みに行きました。悪いこともしてましたが、何故か社長から寮長に指名されました。その後、美容院資材の販売会社を創設しました。トラックを買って売り歩いたのですが、うまくいかなかったな。

2. 創業期

◆ いよいよ千葉総業の創業、梱包業に進んでいくのですが、きっかけは。

野城 糶屋と呼ばれる親戚の永野さんがベトナム戦争特需期、梱包業で儲けていたのです。彼に誘われ、三和梱包を創設し共同経営者となりました。三和梱包は3年間続きましたが、特需が去り、他の仕事を探しだし、三井造船の社員の引越作業を請け負いました。これが三井造船との出会いです。三井造船の長谷川運輸課長、穂倉課長代理に仕事ぶりを認められて、三井造船の子会社の係長に誘われたのです。しかし、人

に使われるのは意に沿わないので独立開業を決断し、1972年2月株式会社千葉総業(現シーエスジャパン)を設立、菊間の自宅の敷地に本社を置きました。当初は玉掛け業務(クレーンワイヤーに荷物を掛け、現場へ運ぶ)を孫請けでのスタートでした。

創業の翌年1973年は第一次オイルショックの年で、日本は高度経済成長期の終焉といわれた時代を迎える。会長はそんな時代に創業したのである。

野城 三井造船の仕事も減少し、1974年頃は他の会社の梱包業務を請け負うことでしのいでいました。その後、三井造船構内運搬を請け負うことになり、千葉総業のネーム入りのフォークリフトを初めて買った時はうれしかったですね。

オイルショックを機に日本経済は不況とインフレの同時進行に長年苦しむ。三井造船は造船不況により構内作業、梱包作業も減退する。千葉総業も次の仕事を模索する。

3. パレット事業の創業、発展、インドネシアと共に

◆ 構内作業請負の後、パレット製造に進むのですね。どのようないきさつだったのですか。

野城 1979年頃だと思いますが、三井造船の紹介で三井物産市原営業所よりパレット製造業の仕事の引き合いがきました。三井物産は当時ある会社から供給を受けていたのですが、その会社が設備投資過剰で経営破綻してしまう。そこで、外注製造、材料購買ルートを引き継がせてもらい、パレット製造に乗り出しまし



た。その会社は多くの外注先を持っていたのですが、福島松材が主でした。また当時は南洋材(フィリピン)の時代で、三井物産が丸太で仕入れ、そこからパレット材料が供給されたこともありでしたね。

三井造船の縁で三井物産との取引に発展した。三井造船の課長さんとの出会い、またその時の仕事振りが認められた結果であろう。

◆ 1980年玉前に本社を移転、工場建設。パレット製造の拡大に至るわけですね。

野城 宇部興産、日本合成ゴム、住友化学、旭化成等と拡大していきました。工場建設は中小公庫と直取引で資金調達ができたと大きかったです。この時は千葉銀行の湯浅課長が直接取引にチャレンジさせてくれたのです。

◆ そしていよいよインドネシアからの材料調達となります。

野城 当時のゴムを運ぶ箱はパレットの上にベニヤ張りの箱でした。大量の供給となり、海外生産を模索することになりました。一方、造船不況により、三井造船を退職する技術者を採用できていたため、思い切って進出できたのです。

◆ 若き日の若松さん、川守田さん、高井さんですね。インドネシアにはどのように。

野城 確か1988年の3月頃、シンガポールのTENGLER TIMBER社を訪問し、初めて飛行機に乗りました。そして技術提携、生産委託に成功しま



した。しかし、供給力に問題がありまして、インドネシアに詳しい三菱商事 OB の JSR 商事の方に P.T. AHLINDO 社の紹介をしてもらったことになったのです。

◆ インドネシアに向かうなんて信じられないのですが。

野城 言葉が通じず、取引の話は進められず困ったね。一日棒にふったことが 2 回はありましたが、P.T. AHLINDO 社は家具メーカーとしてそれなりの会社でなんとか技術提携・生産委託に成功したのです。

◆ とはいえ、千葉総業仕様の部材を製造させるには相当の苦労だったのでは。

野城 物作りでの苦労は当たり前前の苦労だったと思います。他の日系企業の技術者は 16 時には上がり、ホテルに帰る。だけど、若松さん、川守田さんや当社の皆さんは、工場に泊まり込んで指導したのです。すると、気持ちに通じてくるのです。P.T. AHLINDO 社は、家具メーカーで、穴開け治具等を作れるし、乾燥もできた。しかしながら、材料の収縮を理解してもらうのには苦労しました。

そんな頃ボヤを出したのです。直ぐに 18 万ドルを貸し付け、乾燥炉を修繕増設させました。千葉銀行、中小公庫から資金調達できてありがたかった。あれで P.T. AHLINDO 社とはしっかりタッグが組めるようになったのですね。

P.T. AHLINDO 社への生産委託により、2004 年以降のパレットレンタル化へも対応でき、千葉総業は大きく発展していくことになる。それにしても、日本

の中小企業の東南アジア進出の先駆けではないか。しかも、大企業の現地生産についていったのではない。会長と当時の皆さんのパイオニア精神にはただ感服である。

4. 鉄製物流機器事業の創業、さらなる発展、大連と共に

◆ 次は鉄製品への進出ですね。

野城 ゴム運搬器具のスチールボックス化が進むことへの対応に当社は遅れたのです。何とかするにはコストダウンしかなく、中国で生産できないかと考えました。立石の従兄弟がイトキンに勤めており、その関連で営口市の鉄工所を紹介してもらいました。高井さんが詰めてくれましたが、先方が兼業の飲食業に手を出してうまくいかなかった。

その時、大連の大学院出身のエンジニアの紹介で高井さんが藩さんと出会い、いい感触が伝わってきたので、確か話を聞いて 5 日後には大連に飛びました。藩さんは日本語ができるので本音の話し合いができ、また、何とも人なつっこい笑顔が気に入りました。そして商社を通さず直でやることができたのです。藩さんは、日本の会社の鉄の通函製造をやったことがあり、技術があったのです。

◆ とはいえ、大連でも苦労されたのですよね。

野城 大連でも当初は苦労しましたね。高井さんが張り付けてくれ、その後は川守田さんが張り付けてくれました。若松さんはインドネシアで忙しくて。当初、旭化成さん向けで溶接不良を大量に出してしまったことがありました。原因としては、電圧の不安定という中国の事情、また、量産化に入った当初であったことによるものだったと思います。その時、藩さんは「全



品交換する」決断を素早くしてくれました。それを受け、先方も感銘し補修での対応で許してくれました。早い決断と真摯な対応は心を動かすのですね。

◆ しかし、ほぼ初対面のしかも親子ほどの年の差の藩さんと組むことへの決断はどこからでしょうか。

野城 木製ボックスからスチールボックスへの流れは決定的であり、製造すれば売れることは間違いなかったのです。藩さんとは本音で話げできた。藩さんに賭けたのです。

藩さんは大連工科大学出身、大連小野田セメント（現太平洋セメント）にかつて勤めておられた。現大連日牽物流装備 総経理の施さんも大連小野田セメント出身である。大連と日本の何とも言えぬ繋がりが、千葉総業と藩さんとの縁を結んだのであろうか。

シーエスジャパンの現在の売上の 6 割は日牽グループ製品による。大連日牽グループとの提携により、シーエスジャパンはさらなる発展をとげ今日に至る。大連日牽グループも、丹東、安徽と新しい工場を作り、大きく発展した。

5. 古河事業所の開設

◆ 創業の地、故郷千葉県市原からいよいよ古河に進出です。

野城 関東内陸部に拠点が必要と感じ、筑波辺りを探してきました。2019 年の入梅の頃のある日、野積みの木製パレットが動かないのが強く気になりました。野積みでは腐らせてしまう。危機感を感じました。鉄製品の拡大も必要です。五井だけでは会社のこれ以上の発展は難しい。2019 年秋に社長と古河を見て決断し、仮契約をしました。その後コロナで世の中は大変なことになったが、ここがチャンスと考え本契約しました。

◆ コロナで大変な今、何故チャンスなのでしょう。

野城 コロナでみんなが萎縮し、手を広げようとしなない。だから今が手を広げるチャンスなのです。

◆ 千葉総業の創業自体が第一次オイルショックという未曾有の時でしたね。



6. 何故ここまで発展できたのか

◆ シーエスジャパン（旧千葉総業）の歴史を語っていただきました。シーエスジャパンは本年 2 月 1 日創業 50 年に至りました。ここまで発展できたのは何故でしょうか。何を一番大切にしてきたのでしょうか。

野城 人から聞いたり、本で読んだことをしてきたのではないのです。全て、父から教えられたことをやってきただけ。明治 31 年生まれ父は、ひたすら働き、小作農から自作農となり戦前 45 歳の頃には、田 1 町 2 反（360 坪）、畑 6 反、山林 1 町 2 反を保有するまでになりました。父のやっていたことは、とにかく整理、整頓、清掃。この 3S に関しては、狂気といえるほど徹底していました。子どもの頃から父の手伝いをしていましたが、父の農作業その全てを見習って、やってきました。父のやることは全て理にかなっており、またそれが徹底していたのです。それでも自然を相手とする農業はいかんともしがたいところがあります。それに比べれば製造業は、理にかなったことを徹底すれば、必ず成果につながると思うのです。

ヒトを人間に進化させた営みである農業には全てがあるということであらうか。3S が製造業の基礎であるが、農業の基礎も 3S ということである。考えて、考えて、理にかなったことをやってきて、シーエスジャパンはここまでの会社となったのである。

令和 4 年 4 月末、野城会長は会長職を退任、今後はシーエスジャパン(株)名誉顧問として、これからの会社の在り方を温かい目で見守っていただけることであらう。

シーエスジャパン 製品一覧&売上分布

WHAT IS COMING NEXT??....

名称
①製品用途
②使用場所等

売上 上々製品



木製パレット

- ①輸送／保管／移動／海外向け 1way
- ②工場・倉庫・空港・ホームセンター等



これから
販路を広げたい！



CS ポストパレット

- ①製品の保管 (2 段式かつ段積みが可能)
- ②部品メーカー・小売り業等の倉庫

自信を持って
おすすめします！



メッシュパレット

- ①部品の保管等
- ②自動車部品メーカー・機械メーカー・農業・水産業・産業廃棄物処理場等

お客様の立場に立って、
品質の良いもの作りを目指します！

小売り向け 生活に身近

ロールパレット

ロールボックス



+ 保冷カバー

- ①商品の荷役／運搬／移動
- ②スーパーマーケット・コンビニ・ホームセンター・物流倉庫

売上もっと伸ばしたい製品

例えば合成ゴムメーカーでは…
製造された合成ゴムを充填して
輸送・保管する為に使われているよ！



スチールボックス

- ①保管／輸送／輸出
- ②合成ゴムメーカーなど製造現場



鉄製特殊パレット

- ①部品の保管・輸送
- ②自動車工場など製造現場



もっと
売上伸ばす
には ...



工業向け 製造業に貢献



木箱・木枠梱包

- ①製品輸送時の保護
- ②製品運搬時 (輸送トラック等)



事務、現場共に
臨機応変な対応を
心掛けます。



ネスティングラック

- ①製品の保管
- ②倉庫等



ベトナム LUFA 社駐在

わかまつ ひろし
若松 廣司 さん



若松さんは1951年生まれ、北海道紋別のご出身。紋別高校機械科卒業後、三井造船千葉事業所に入社。1年間の研修後、艀装制作部配材課に所属となった。シーエスジャパンは当初、この配材課の玉掛け作業を請け負っていた。

◆三井造船時代に野城会長と出会っているわけですが、どんな印象でしたか。

若松 当時は三井造船の人間と千葉総業の人間が一緒にフォーク作業をしていたのですね。会長は静かなイメージ。キャパが大きく、やくざの親分のような感じでした。

◆どういういきさつで千葉総業に入社されたのですか。

若松 造船を辞め、他の会社に行ったが条件が合わず、会長に拾われて入社しました。大変ありがたかった。初めは玉前工場でパレットづくりの現場を学び、その後営業となりました。

◆入社した時の千葉総業の雰囲気はいかがでしたか。

若松 町工場、零細企業の典型といった感じ。現工場の場所に、事務所、プレハブの工場がありました。

◆どのようなお客様のお相手をされたのですか。

若松 旭化成、住友化学、日本合成ゴムさんなどへ木製パレットや木製のゴム通函を売っていました。住

友化学さんが大型自動倉庫を作るということで、14型の自社パレットから2200型の大型パレットに切り替える上で、レンタルパレットを使うようになり、NPPさんとの付き合いが始まりました。

◆千葉総業の礎を作られたのですね。ではインドネシアへの進出のきっかけを聞かせて下さい。

若松 大量の注文が見込まれたので、1988年頃住友化学さんの14型のパレットをシンガポールで製作を始めましたが、材料が手に入らないのです。そこでJSR商事の方のつてでインドネシアのP.T. AHLINDO社を紹介されました。当初は宇部興産さんの合成ゴム通函を生産してもらい、その後NPPのレンタルパレットへ対応できたことになります。

◆たくさん苦労があったと思いますが、お話いただけますか。

若松 住友さんの注文で、製品ができたと連絡を受け、会長と検品をしに行ったら物が無い。結果として作れてなかったのです。そこで2週間工場に泊まり込み製作に携わり、なんとか納品に至りました。その後ボヤで乾燥炉が焼け落ちる事故があったとき、P.T. AHLINDO社より助けを求められ、会長の決断で融資をして乾燥炉の能力もアップさせました。それがきっかけで信頼関係ができ、川守田さんの張り付き指導で、いい製品を作れるようになりました。

◆大連進出、心配はありませんでしたか。

若松 最初の遼寧省営口市の鉄工所は、工場は立派なもの、製品は軒先で作っており上手くいきませんでした。その後、藩さんと出会いました。藩さんは大学院卒でやり手、かつ堅実な人というイメージが伝わってきた。信頼できる人だと確信しました。ところが、図面をそのまま渡しても作れない。+0/-2で作らないと枠を組めないことを理解させるのに大変苦労しました。図面で書くと隙間0、しかし溶接をすると広がり、のちに縮む。私はガス溶接もできますが、金属の種類で溶接方法が違う。やってる人はすぐに理解できるが、知らない人にはわからない。そして旭化成さんからのクレーム。大量の作業で電圧が下がり溶接がうまくいってなかった結果でした。全品引き取るといふ藩さんの即断がすばしかったですね。あれで信頼関係が構築されたと思います。

◆ベトナムのLUFA社へ行かれたのはいつからですか。

若松 2012年頃にスチールボックスを作らせるところを探しにマレーシア、タイと廻りたどり着いたのがベトナム南部でした。シンガポールの日系会社の生産したゴムを輸出する為のスチールボックス製作が目的だったのですが、探すのに1年近く掛かりました。LUFA社は台湾系の企業で技術があり、薄物ができる。しかし、指導に2年掛かりましたね。

◆千葉総業、シーエスジャパンのここまでの成長の主因は何でしょう。

若松 会長の「行け、進め！責任は取る。」その言葉に皆が背中を押され、同じ方向に向かって進めた事ではないでしょうか。

◆会長の傍にいて大変ではありませんでしたか。

若松 大変なこともあります。よく気が付く。見方が違う。そして理にかなっている。そういう人です。

◆今後のシーエスジャパンはどうあるべきでしょうか。

若松 まず、どの世界に行くか。いずれにしても、これまで作ってきた物のプラスアルファを引き出ししていくことになるでしょう。これまで当社が入れなかった世界にこれから入っていかなければならない。ホーチミンのイオンに時々行きますが、ああいう小売業の使うワゴンなどができないかなとも思います。日牽グループ、LUFA社の特色を活かせば、いろいろな可能性はあると思います。

若松さんは2006年から3年間、社長を務めた。そして、38年間常に会長の片腕であった。若松さんがいなかったら、シーエスジャパンのここまでの成長はなかったであろう。



・メーカー営業は、お客様に対して「2歩踏み込む」、製造に対しては「物作りへの心」を持って接する。
・メーカー営業は「専門知識」が必要。(専門性)

設計担当
シニアマネージャー
かわもり たかし
川守田 隆 さん



川守田さんは1953年北海道、滝川の生まれ。北海道立滝川工業高校卒業後、1971年に三井造船入社、配属先は艀装制作部配材課、先輩に若松さんがいた。1985年5月入社。

◆シーエスジャパンへの入社のきっかけをお話いただけますか。

川守田 1985年2回目のオイルショック時、周りが肩たたきされる中、雰囲気的にいいのかと不安になったのです。その時、若松さんに声をかけられました。ゴム用の木製通函をガンガン作っている現場に入りました。

◆当時のパレット製造は今と違っていますか。

川守田 基本的には変わりませんが、ネイラーが凄く重かった。今は昔のものに比べればだいぶ軽い。

◆インドネシアのお話をお聞きしましょう。

川守田 合板箱を作り、に会長と一緒に行きました。工場に寝泊まりしました。お風呂は大きな桶に入った水をかけるのですが、ボウフラがたくさん。でも何故か蚊には刺されませんでした。トイレもひどいものでした。

◆言葉が通じないなかでの現地の人の指導は大変でしたでしょうね。

川守田 先ずは自分がやって見せるのですが、定規をやりやすいように勝手に変更してしまうので一定の製品が作れない。1303の寸法にするため、3ミリ短くする指示を出しても理解してもらえない。理解を得るのに苦労しました。出来上がった物のチェックするも

ハネが多かったものの、とりあえず出荷しました。3ヶ月現地、一度帰り、2週間後に行くの繰り返しでした。3年経った頃、乾燥炉でボヤが発生した時に会長の即断で資金援助をして、乾燥炉を能力アップしました。ここで信頼関係を築けたと思います。

◆次に大連についてお願いします。

川守田 2004年の末に高井さんと一緒に初めて大連に行きました。宿泊所はお湯が出ず、体を洗えず困りました。2006年頃、自動車を運ぶマザーラックにもチャレンジしました。最初の頃、寸法取りを理解してもらうのに苦労しましたが、大連の人はできないとは言わない。やっとの思いで製品は完成しましたが、販路がなかった。結局、2012年までは大連中心でした。大連日率も初めは1棟だったのが、今では6棟までになった。

◆会長との出会いは三井造船時代ですよ。

配材のフォーク作業をしていた会長と出会いました。自分が18歳、会長は34歳、会社からは仕事を指示しろと言われましたが、頼みづらかった。逆に会長は気を遣ってくれました。

◆川守田さんにとって、会長とは。

関東に出てきてから、親よりも長く一緒にいる人です。

インドネシア、大連という最前線を担った川守田さん。去年は自動洗浄機作りお疲れ様でした。

鹿島営業所
シニアマネージャー
たけうち ふみひで
竹内 文英 さん



竹内さんは1955年生まれ、1974年日立製作所茂原工場に就職、同社を1988年6月に退社、そのまま千葉総業に入社した。

◆すぐに千葉総業に入社したのですね。まずどのような仕事を。

竹内 当時は社員50名程の会社でした。営業職で若松さんが上司、会長が当時直接持っていたお客さんを担当しました。

◆竹内さんが入社後インドネシアに進出しましたが、どのように思いましたか。

竹内 日本パレット協会の会合に行くと、小さい会社なのに噂をされていました。リスクはあったでしょう。当初インドネシアからの製品は酷かった。濡れ、カビ、サソリの死骸など大変でした。そのパレットを川守田さん、若松さん、阿部さんらでコンテナから引っ張り出して使えるように修理をしたことを覚えています。

◆一番つらかったことをお話下さい。

竹内 1995年頃、鹿島の責任者でしたが、通路に仮置きしていた荷物を出荷したところ、荷物の間に大量のヤスデを発見。大クレームとなり、最終的に契約を切られ数ヶ月売上げがゼロになってしまいました。困り果てましたが、NPPの水戸支店からパレット修理の依頼があり、最終的にデポ業務もやらせてもらえることになりました。後から聞いた話では、周りの田んぼが減反で荒れ地となり、地域的に異常発生していたとのことでした。

◆他にご苦労は。

竹内 苦労というか悔しかったのが不二サッシさんとアルミの合成ゴム通函を作ろうとした件です。設計から一緒に入りました。パレットは出来ましたが、側板は難しかった。結局耐久性がクリアできなかったのです。

◆悔しい思い出ですね。この度、久しぶりに鹿島ですね。

竹内 あの時（ヤスデ事件の時）倉庫の周りの雑草を刈っていれば、もしかしたら防げたのではと思い、先ずは草刈りをやりまして、先日終わりました。

◆技能実習生の面倒をみる仕事もやられていましたね。ご苦労は。

竹内 以前はあまり苦労した気はしないのです。むしろ最近、親子どころか、孫に近い年の人たちの世話となり、分からないことが多くなりました。

◆会長との何かエピソードをお願いします。

竹内 4トントラックの運転なんかしたことないのに、製材品（パレットの補修板）の配送に行かされました。途中、何度もエンスト、急ブレーキを繰り返したので、道半ば、荷崩れしてしまいました。しかし、助手席にいた会長も一緒に積み込んでくれました。チャレンジを求めはしますが、フォローもしてくれるのです。面倒見がいい。厳しいですが、優しいところもあります。

会長からの様々な課題にチャレンジしてきた竹内さん。社内の環境整備にも力を注がれてきました。これからは、その重要性を継承してもらいたいと思います。



社長室・総務経理グループ



鹿島営業所



営業本部



古河事業所



本社現場



(株)千葉総業

50周年によせて

創立 50 周年にあたり、諸先輩方、従業員の皆さん、そしてお客様一人ひとりのおかげでここまで積み重ねることができたと、改めて感謝の気持ちを申し上げます。

私が当社に入社したのは13年前のことですが、当時から海外展開を積極的に行っており失礼ながら「この規模の会社でこんなに海外展開しているなんてすごいな」と感じたものです。

パレットという言葉も現物も初見でしたが、長年触れていく中でお客様の大切な製品を運び、保管するため世の中には欠かせないものだとなりました。

当社の製品は決して世の中の主役ではありませんが、製品の品質・納期・価格に徹底的にこだわり追及することで、50年間お客様に選んでいただけたのだと思っています。

お客様に満足していただくこと、従業員がやりがいをもって働けること、「物流」という社会インフラへの更なる貢献、そしてその先にある人々の幸福のため、50年間積み上げた知識や経験を活かし次の50年へ一歩一歩邁進していきたいと思っています。

常務取締役

かわらい たかし
河原井 崇志

更なる年輪を刻むために。

昭和、平成、激動の時代を超え創業50年と言う大きな節目の年に、その年輪の一員であることを誇りに思います。

私が入社した当時の本社事務所はオフィスらしいものではなく、夏は暑く冬は寒いプレハブの一室に会長、社長、営業部員全員が集い厳しくもアットホームでしたが、現本社ビルの建設中のワクワクと完成した時の喜びと興奮を昨日の事の様に思い出します。

今後加速していくであろう環境変化の時代／世界に生きている事を認識し、成長著しい東南アジアを拠点に諸先輩方が築いてこられた伝統を継承、今後の発展に微力ながら貢献し更なる年輪を刻みたいと存じます。

CS ベトナム代表 取締役

おおくぼ たかし
大窪 崇史

五十周年を迎えられた事、大変喜ばしく思います。

創業から今日まで、先輩方をはじめ、現従業員、数々の険しい道のりと困難があったと思います。しかし、全従業員で支え合い、何より取引先様、近隣の方、ご家族、ご友人、すべての方の温かい心、ご支援があったからこそ乗り越えられてきたと強く感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

これから先10年後、20年後と苦しいこと、辛いことはあると思いますが、負けずに強い気持ちで行動し、皆様の幸せを願います。

本社工場 工場長

これつね ひろし
是恒 寛

シーエスジャパンの存在

私にとってシーエスジャパンとは、自分を成長させてくれる場所であり、これにかなうものは他にはないと考えます。

最後までやり遂げる忍耐力、困難に立ち向かう精神力、円滑な人間関係を築くコミュニケーション力、努力だけでは成功しない難しさ、成果を上げるための効率化、楽して効率を上げる要領の良さ、新しいことを学ぶ楽しさ、誰かのために頑張れる喜び、自分ひとりの孤独感と無力感、仲間への信頼と感謝の大切さ。これらは全てシーエスジャパンから学び感じたことです。

約15年前に職を失い、正直なところ、“家から近い”という理由で何気なく選んだ会社でしたが、様々な人と出会い、数多くの貴重な経験を得ました。そのような環境の中で仕事ができることに日々感謝し、とても働き甲斐を感じております。

どうぞ、これからもよろしくお願い致します。



株式会社千葉総業
常務取締役
くわだ としかず
葉田 俊和

私が入社したころは、今では当たり前になっているレンタルデポ事業、中国でのスチールボックス製造を始めたばかりで、当時は今のように入荷場、デポ棟もなく限られた敷地の中、ありとあらゆる場所にパレットが無理やり山のように置かれていた記憶があります。

スチールボックスも旭化成様向けから始まり、住友化学様向けのサンプルを始めようとしていたころで、最初は鉄・塗装・メッキの知識もなく、失敗またクレームの連続でお客様には沢山ご迷惑おかけしました。ただ時代なのか、お客様にも沢山の助けをいただき今のシーエス・千葉総業があるのかなと思います。人との繋がりが当社の基礎だと思います。

これからも『人・時・物』を大事に繋げていけるよう一員として歩みたいと思います。

最後に創業 50 周年バンザイ！

創業 50 周年、心よりお祝い申し上げます。

2 人目の子供を出産後に復職し、気がつけば人生の半分以上の年月がたっていました。子育てしながらの仕事は大変な時期もありましたが、沢山の人の助けを借り、そして何より総務の仕事が好きで長く勤める事が出来たのだと思います。

この 50 周年という節目の時に立ち会えた事に感謝の気持ちでいっぱいです。

私が入社した当時は、まだパソコンが普及しておらず、請求書も手書きで、文書もワープロで作成していたのを思い出します。また、事務所はプレハブで、飲み水が出なかったため、毎朝近くの倉庫に水を汲みにいくのが大切な仕事でした。

今後も会社の社訓である「人、時、物」を大事に、会社の発展の為に、微力ながら誠実に仕事に励んでまいります。



総務経理グループ
たかい たえこ
高石 妙子

昭和 51 年からお世話になっています。仕事を探していたときに、菊間の千葉総業の看板を見つけました。日曜大工など、物を作るのが好きだったこともあり、梱包に興味を持ち入社しました。最初にお会いしたのは、工場長の山下さんでした。二十歳前後の頃、運転免許を取る為貯金をしていたところ、会長から「運転手が必要なので、会社でお金を出すから運転免許を取れ」と言われ免許を取ることができました。

三井造船の現場では、高井さんと働いたのを覚えています。玉前倉庫ができたときは倉庫の仕事、鹿島ができたときは応援にも行きました。入社から 45 年、ここまで長くいるとは思っていませんでしたが、ずっとものづくりで仕事をしていたいという気持ちが長く勤められた理由です。これからも梱包のスペシャリストとして従事したいです。



本社工場 製函担当
シニアアドバイザー
こたけ しげあき
小竹 重昭



営業アシスタントチーム
主任
ながの まゆこ
長野 真由子

このたびは会社創立 50 周年、おめでとうございます。

娘が生まれて 1 ヶ月経つたばかりで入社させていただいて、とても古き良き時代を残す温かい会社だなあという印象を持ったのを思い出します。

いつも誰かが気にかけて助けて支えてくれる。そんな人に恵まれた職場に長く勤めさせていただきとても感謝しています。

わたしも少しでも誰かの助けになれる様に頑張ろうと思っています。

稚拙ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。



藩さんへ

身体にしっかり気を付けて、永遠に元気でいてください。

あなたがいてくれたから、シーエスジャパンはここまでできました。



大連工場（大連日牽物流装備有限公司）



- 設立
2003 年
- 敷地面積
50,000 m²
- 従業員数
800 人
- 主な製造品
 - ・鉄製ボックス
 - ・鉄製ラック
 - ・その他

丹東工場（丹東日牽物流装備有限公司）



- 設立
2007 年
- 敷地面積
155,000 m²
- 従業員数
1,000 人
- 主な製造品
 - ・鉄製ボックス
 - ・鉄製ラック
 - ・メッシュパレット
 - ・カゴ台車
 - ・その他

安徽工場（安徽東泰金属包装技術有限公司）



- 設立
2014 年
- 敷地面積
14,000 m²
- 従業員数
150 人
- 主な製造品
 - ・鉄製ボックス
 - ・鉄製ラック
 - ・カゴ台車

ベトナム

CS ベトナム (CS Vietnam Pallet Manufacturing Co.,Ltd.)



- 設立
2017 年
- 敷地面積
3,000 m²
- 従業員数
30 人
- 主な製造品
・木製パレット



LUFA MECHANICAL Co.,Ltd. (ホーチミン)



- 設立
2014 年
- 敷地面積
28,500 m²
- 従業員数
150 人
- 主な製造品
・鉄製ボックス
・鉄製ラック



インドネシア

P.T. AHLINDO PERKASA ALAM (インドネシア)



- 設立
1984 年
- 敷地面積
58,000 m²
- 従業員数
500 人
- 主な製造品
・南洋材パレット
・家具

シーエスジャパン株式会社／P.T. AHLINDO 社 植林事業について

シーエスジャパン株式会社とアーリンド社共同で、2000 年より現地（インドネシア スマトラ島）にて植林を行なっています。これにより～植林～育成～利用～までの環境リサイクルを実践していくを考えています。



100 ヘクタール（100 万平方メートル）の土地で植林を行なっている。2005 年 8 月時点で TOTAL75000 本植林済み



マホガニー材 樹齢 2 ～ 2.5 年
約 5.0M まで育っている。

植林前の苗木で、現在主にチーク材、マホガニー材の 2 樹種を中心に植林しています。

チーク材、マホガニー材とも 20 ～ 25 年で育ちますが、木材の品質を考えると 40 ～ 50 年で最もよい状態となるようです。

海拔約 800M、近くには川が流れ植林には最も適した場所で行なわれています。また近くには大手ゴムメーカーにより、ゴムの木の植林も行われています。





2008年 社員旅行 鎌倉～熱海



2015年10月10日 第三工場地鎮祭



2010年 女性社員



35年前の制服で会長と



2008年 社員旅行 鎌倉～熱海



2008年 社員旅行 鎌倉～熱海



2018年 山口レノファ観戦



2006年 本社事務所建築写真



野球チームCS PALLETS マリンフィールドにて
(現ZOZOマリンスタジアム)



野球チームCS PALLETS



千葉総業 海水浴



インドネシア実習生と竹内さん



三井造船にて



創立30周年記念 サイパン社員旅行



サイパン (若き川守田さん・阿部さん)



2010年 日帰り社員旅行



2014年 社員旅行 堂ヶ島～西伊豆



昔の事務所にて



2016年 日率グループ新管理チーム就任式



2014年 安徽東泰 会社設立調印式



2007年 中国大連 川守田さん



2009年 東港市長来訪



2016年 日中韓米戦略協力調印式



フランスTER



2009年 青島 泰山観光



50周年記念品

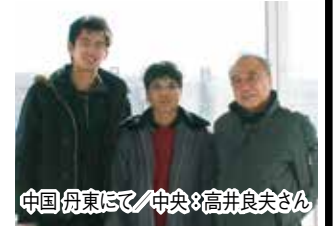


ボトル



文明堂カステラ／画：中嶋 宏利

35年勤続された高井良夫さんは2020年7月25日お亡くなりになりました。1985年12月に入社、三井造船では若松さん、川守田さんと同じ職場の後輩でした。パレットの現場から当時営業倉庫を任せられ、インドネシアにも張り付かれたそうです。中国事業の立上時、まず営口の鉄工所に行かれ、その後最初に藩さんに会われたのも高井さんでした。長年のご貢献ありがとうございました。



中国丹東にて／中央：高井良夫さん



会社概要

社 名 シーエスジャパン株式会社
所 在 地 千葉県市原市玉前西 2 丁目 2 番地 18
設 立 昭和 47 (1972) 年 2 月 1 日
資 本 金 5,000 万円
代 表 者 代表取締役 野城 正人
従業員数 85 名
事 業 所 本社
五井工場 第 2 工場 第 3 工場 パレットセンター
玉前第 1 デポ 玉前第 2 デポ 玉前第 3 デポ 玉前倉庫
古河事業所
鹿島営業所

グループ会社
株式会社千葉総業

海外グループ会社
ベトナム
CS Vietnam Pallet Manufacturing Co.,Ltd.
中国

CS 大連有限公司
大連日牽物流装備有限公司 丹東日牽物流装備有限公司
安徽東泰金属包装技術有限公司
米国 (ミネソタ州)
CJK INTERNATIONAL HOLDINGS LLC

協力会社
インドネシア
P.T. AHLINDO PERKASA ALAM
ベトナム
LUFA MECHANICAL Co.,Ltd.